

令和7年度 第2回 学校運営協議会

県立新宮高等学校

日 時 : 令和7年7月9日(水)

出席者 : 委員9名、事務局(本校教職員)8名

議題

【学習支援部会】

① 13:10~13:55 研究授業を参観(国語 言語文化 清岡 美喜 教諭 IGI)

② 14:05~14:50 研究協議・学習支援部会協議「本校の学習指導のあり方について」

【地域連携部会】

14:00~14:50 地域連携部会協議「本校と地域との連携のあり方について」

【全体会】

15:00~15:45 各部会をふまえて全体での協議

協議した主な内容(全体での協議)

【学習支援部会をふまえて】

- ・探究活動を調べ学習ではなく、自分ごとにしていくことが必要である。
- ・今年度、学彩探究科の開設にあたり、6つの資質・能力(問題発見力・課題解決力・創造力・表現力・主体性・協働力)を育むことを目標としてルーブリックを作成し、評価していこうとしている。また探究人材バンクの取組も始めており、より考察を深められる課題設定に繋がっていきたい。
- ・大学入試の際に、部活動以外で高校時代取り組んだこともしっかり述べられるようにしたい。
- ・主体的な学び、探究的な学びが進路に繋がるものになっているか考える必要がある。
- ・主体的な生徒を育てる授業・取組を行う中で、評価・分析をしておく必要がある。教職員が同じ意識を持つことが大事である。
- ・知識の獲得と探究的な学びのバランスが肝要である。
- ・時代の先を見据えて、探究的な学びに取り組んでいく必要がある。

【地域連携部会をふまえて】

- ・地域連携は、地域行事に参加するだけでなく、双方向に絡み合えるもの、ともに考えていけるものにしたい。
- ・深い地域連携が必要。レスポンスがあるものにしたい。
- ・やりっ放しではなく、失敗しても何度も立ち上がれるような取組がよい。地域の方に来校いただいたり、一緒に考えていけたりするとよい。地域連携はもともとあったものでもあり、斜めの関係を大切にしたい。
- ・実施した結果をふまえ、修正・改善をしてより良いものにできるとよい。
- ・木材など地域の特産物を活かしたり、地域の第一次産業や、地域産業界と連携できたりするとよい。

【協議を経て】

- ・「深まり」「自分ごと」を共通項として確認した。

学校運営協議会委員 出席者(9名) (敬称略)

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| ・西 哉素史 (本校同窓会会長) | ・中谷 剛 (新宮ユネスコ協会会長、元本校校長) |
| ・丸山 範高 (和歌山大学教育学部教授) | ・二宮 衆一 (和歌山大学教育学部教授) |
| ・中岸 由加 (元本校振学会副会長) | ・前地 望 (元本校振学会会長) |
| ・赤岡 有紀子(小学生保護者) | ・福田 哲也 (緑丘中学校校長) |
| ・下村 史郎 (本校校長) | |

出席した教職員(8名)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ・橘 恭子 (全日制教頭) | ・丸本 宗 (事務長) |
| ・丹羽 泰一郎(全日制総務部長) | ・金井 直大 (全日制教務部長) |
| ・雨郡 義和 (全日制生徒支援部長) | ・清岡 美喜 (全日制進路指導部長) |
| ・下平 崇弘 (全日制特別活動部長) | ・太田 勇暉 (全日制探究推進部長) |